

南アルプス市立八田中学校 後期自己評価書

平成31年1月10日(木)作成

学校長：石丸 洋一

記述者 教頭 青柳俊也

1. 校訓 「日日新」
2. 学校教育目標
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝

は	励んで学び、確かな知識を持つ生徒	(知育)	→	知の力
っ	強い精神と身体を持つ生徒	(体育)	→	体の力
た	助け合い、いたわり合う心を持つ生徒	(徳育)	→	心の力

『当たり前のことを 当たり前にする』

4. 学校経営方針
(1) 職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。
(2) 生徒理解を深め、一人ひとりの良さや可能性が活かされるよう努める。
(3) 教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
(4) 家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。
5. 生徒の努力目標
(1) 授業にしっかり取り組もう（主体的・能動的・積極的に取り組めたか）
(2) さわやかに挨拶をしよう（今日の、この出会いを大切に出来たか）
(3) 思いやりの心を行動につなげよう（相手の身になって考え行動できたか）
(4) 主体的に活動しよう（3本の木を大切に、創意工夫をもち取り組めたか）
6. 教師の努力目標
(1) 社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師
(2) 異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見だし伸ばしていく教師
(3) 教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師
(4) 教員と児童生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師
7. 学校経営の努力点
(1) 知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。
(2) 自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。
(3) 豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。
(4) 体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。
(5) 家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。

I 後期学校評価の結果（前期学校評価との比較を含む）

1. 教職員の自己評価
 - (1) 後期の結果
 - ① A・B（肯定的評価）の合計が100%の項目
12項目（前期：5項目）
 - ② C・D（否定的評価）の評価がついた項目
「教育課程3/授業や単元のおわりに、「めあて」を達成しているかどうかを評価している。」C2名
「教育課程4/道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている。」C5名
「教育課程5/特別活動の取組を通して、自己実現が図られるよう、取り組んでいる。」C1名
「教育課程6/「総合的な学習の時間」が、生徒の「生きる力を育む」ものとなっていると思う。」C3名
「特色ある学校3/小中一貫教育を通して、教育活動に取り組んでいる。」C2名
 - (2) 前期との比較
 - ① A・B評価の合計が10%以上向上した項目
「学校運営3/外部講師等を活用するなどし、教育活動に取り組んでいる。」(89.5%→100%)
「生徒指導3/職員間同士での迅速な対応がとれるよう、「報告・連絡・相談」が行えている。」(90.0%→100%)
 - ② A・B評価が10%以上減少した項目
なし
 - (3) 次年度の取組課題（自由記述より）
 - 生徒会（自治活動）の教育目標である「三本の木」、合唱（表現活動）・応援（表現活動）・部活動も取組に前向きに取り組んでいる。しかし、その取組がまだ、あいさつ・返事などにつながっていない生徒が多いことが課題である。気づき・考え・実行することができる生徒の意識改革や育成に向けて、これからも組織的・継続的に取り組んでいく。
 - 体調が悪くなくてもマスクをしている生徒たちがまだ見られる。

- 白を基調とした下ばきを履いていない生徒がまだ見られる。気づいたら、教職員全員が注意することが大切である。
- 学力向上に向けて、家庭学習の習慣を定着させる。
- 気づき・考え・実行するという校長先生の方針が浸透してきている。(生徒及び教職員に)
- 行事を経験するたびに生徒が成長してきていると感じる。
- 行事が集中してしまいました。行事の精選と分散化を図りたいです。(小中連携も含めて)

2. 学校生活に関する生徒アンケート

(1) 後期の結果

① A・B評価の合計が80%未満の項目

「あなたは、「家庭学習ノート」(自主学習ノート)に取り組んでいますか。」

「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(連絡)をしていますか。」

② A・B評価の合計が80%以上の項目の変化(全校)

前期 24項目中 90%以上17項目 80%以上90%未満5項目 80%未満2項目

↓

↓

↓

後期 16項目

6項目

2項目

(2) 前期との比較

① 学年別の結果について

・1年

前期 24項目中 90%以上17項目 80%以上90%未満5項目 80%未満2項目

↓

↓

↓

後期 11項目

11項目

2項目

○前期から10ポイント前後上昇した項目

なし

△前期から10ポイント前後下降した項目

「あなたは、「家庭学習ノート」(自主学習ノート)に取り組んでいますか。」

【57.6%↓47.7%】

「あなたは、「八田中学校いじめ0宣言」に取り組んでいますか。」

【100%↓89.3%】

・2年

前期 24項目中 90%以上17項目 80%以上90%未満4項目 80%未満3項目

↓

↓

↓

後期 19項目

3項目

2項目

○前期から10ポイント前後上昇した項目

「あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか。」

【83.3%↑90.9%】

「あなたの学級では、話し合いなどの取組ができていますか。」

【86.4%↑93.0%】

△前期から10ポイント前後下降した項目

なし

・3年

前期 24項目中 90%以上18項目 80%以上90%未満3項目 80%未満3項目

↓

↓

↓

後期 16項目

6項目

2項目

○前期から10ポイント前後上昇した項目

「あなたは、部活動で目的をもって取り組んでいますか。」

【86.8%↑96.0%】

△前期から10ポイント前後下降した項目

「あなたは、授業の「めあて」をノートに記入していますか。」

【94.8%↓80.2%】

「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(連絡)をしていますか。」

【71.0%↓65.8%】

(3) 学年ごとの前期評価との比較及び傾向と考察

★1年の傾向と考察

肯定評価が前期より上昇したのは、「あなたの学級では、話し合いなどの取組ができていますか。」と「あなたの学級では、行事などの取組が協力的にできていますか。」の2項目だった。肯定評価が80%未満は、「あなたは、「家庭学習ノート」(自主学習ノート)に取り組んでいますか。」と「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(情報)をしていますか。」の2項目だった。

1年生は、年度当初からそれぞれが無邪気な行動をとっている様子が見え始めていた。それが、時間の経過とともに集団として成長してきているように感じられる。前期から上昇した項目が、「あなたの学級では、…」であることから、集団としての意識が徐々に大きくなっていることが見て取れる。逆に、学習面において、向上しようとする意識が少々低下しているようである。

★2年の傾向と考察

肯定評価が前期より上昇したのは、24項目中18項目と、大きく前進している。肯定評価が80%未満は、「あなたは、「家庭学習ノート」(自主学習ノート)に取り組んでいますか。」と「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(情報)をしていますか。」の2項目であり、1年生と同様だった。

2年生は、自律している様子が多くの場面で感じられ、頼もしい存在である。学習面においても期待したいところであるが、少々意識が低下しているようである。常に広く受け入れる気持ちと謙虚さを備えていき、八田中の顔となって

前進していくことを願っている。

★3年の傾向と考察

肯定評価が前期より上昇したのは、24項目中7項目だった。肯定評価が80%未満は、「あなたは、学校などからの「たより」や通知を家庭の人に渡していますか。」と「あなたは、教室前出入り口に設置されている「タブレット」からのインフォメーション(情報)を見えていますか。」の2項目だった。

3年生は、学年の仲が良く温かい雰囲気が多く感じられる。合唱や応援におけるリーダーシップは素晴らしく、特に合唱コンクールでは、クラスごとの人数は少ないものの、その表現はすべての観衆を感動させた。それだけのパワーと実力を備える集団であるが故に、個々の力を高めつつ将来へとつなげることを望みたい。

3. 学校生活に関する保護者アンケート

(1) A・B評価の合計が90%以上の項目
19項目中14項目 74%

(H29は20項目中10項目50%, H28は25項目中12項目48%, H27は25項目中16項目64%)

○A・B評価の合計が95%以上の項目

「学校運営4/学校は、防災等の安全指導に、努力していると思いませんか。」

「特別活動1/学校行事は、生徒の成長や学校生活に役立っていると思いませんか。」

「特別活動2/生徒会・学年生徒会・委員会活動等において、生徒が主体的に取り組めるように学校は努力していると思いませんか。」

「特色ある学校1/学校は、八田中の特色である合唱活動に、教師とともに向上させようと努力していると思いませんか。」

「開かれた学校1/学校は、一斉授業参観、学校開放日、休日行事開催など、学校教育の公開に努力していると思いませんか。」

(2) A・B評価の合計が80%未満の項目
なし

(H29年はなし H28年は25項目中1項目 H27年は25項目中3項目)

(3) 学校への意見等(自由記述より)

①八田中は環境的にはとても良いところだと思う。行事も多く、子どもたち同士、先生との関係も、より深まっていると思う。勉強面で、より先生と子ども、家庭が関係性を持って学ぶ楽しさを知っていければと思う。

②合唱コンクールでは先生方の合唱などを見て、先生方と生徒がまとまってよい学校だなと思う。

③上の子どもたちに比べて、毎日宿題があることにびっくりしている。学校・先生方は一生懸命やってくださって感謝しているが、できる子どもはよいが、できない子どもにとってはかなりハード。

④テニスコートの整備をしていただきたい。

⑤生徒の中には一歩間違えばいじめになりかねない言動をする生徒がいて聞いている。休み時間などの生徒の会話にも注意して耳を傾けてほしい。

⑥毎週の学級通信でクラスの様子がよくわかり、楽しみにしている。スケジュールもあり、助かっている。

⑦実際に富士山噴火の時にどう備えるべきか、何が有効なのか等、現実的な指導をしてほしい。

⑧いろいろな事情があると思うが、毎日普通に学校に通っている子たちが、通えない子たちをフォローする学校のアプローチに違和感を感じる時がある。毎日普通に学校に通っている子も思い悩んで苦しんでも頑張っている。

⑦担任の先生が些細な不安ごともきちんと話を聞いてくれているので、安心して子供を送りだせる。

⑧もっといろいろな外部講師を呼んで、子どもたちに聞く機会を与えてほしい。

⑨先生の話が長引き下校時間が遅くなったり、部活動の時間がつぶれてしまうなど気になる。先生方も時間を守ってほしい。

⑩外部の人や保護者に対してあいさつのできない子がまだいるので、それができるとよい。

⑪提出物の未提出者がいることに対して、連帯責任という指導はおかしいのではないかと。声掛けや思いやりの心を育てるという意味合いもあったかと思うが、連帯責任の意味が違うと思う。未提出者への指導をしてほしい。(1学期の懇談で担任にも伝えた。)

⑫家庭学習をほとんどしない、提出しない生徒がいて聞いた。家庭学習は本人のためだから、何を言っても仕方がないが、提出物などもっと厳しく注意すべきだと思う。

⑬試験と行事が近いことがあるので、時期がうまく合うとよい。

⑭部活動の予定を早めに知らせてほしい。特に休日は地区行事や家庭の用事と調整する必要がある。

⑮部ごとに大会の時期が違う。冬は特に下校時間も早くなるので、時間確保にもう少し力を入れていただきたい。

⑯校外での練習が多くて、親の送迎の負担が大きい。

⑰部活動で、生徒の努力を公平に評価しているか疑問。保護者の顔色を見ているような印象を感じる。

⑱合唱に積極的な子とそうでない子の温度差をどうにかしようとして苦しんでいる子も多い。もう少しアシストしてほしい。

⑲小中一貫教育をいまだにあまり実感できていない。八田地区の良いところではあるが、他地区と比べ閉鎖的な感じをうける。子どもたちの視野を広げるためにも、他校との交流などの機会を増やし、刺激を受けてほしいと思う。

⑳車で中学校へ行くとき、車が来ても自転車2列に並んだり、3人ほどで横に並んで歩いていけない子がいる。大変危険なので注意してほしい。

21 新人戦、中間テスト、強歩大会の時期が同時期なので、分散してほしい。

22 奉仕作業の時期が8月でない方がよいのでは。暑いし、土曜出勤の方もいるので、暑い中作業して出勤するのは大変。

23 人の気持ち、相手の立場を考えない言葉、行動をする生徒がいる。一部の生徒だと思いが、かなりメンタル面で傷つくことを耳にする。もっと自分の言動、行動に自覚を持つよう、学校側からの指導をお願いしたい。

24 休みが多くなってきていて、授業についていけないのかと思う。

25 学校、学年、学級と常に内容の充実したたよりを配布していただいている。その内容に目を通し、正しく理解することが保護者の責任かと思う。できるだけ早めに確認をし、教育活動の進め方を理解していきたい。子どもとの家庭での会話も

大切なこと。親子の関係が難しくなっている年頃だが、このようなアンケートをきっかけに、日々を振り返り、また学校との関係の大切さを知ることができる。

26 おたよりでも連絡はあるけれど、子どもがおたよりを見せないというケースもあるので、弁当持ちなど特別な行事のときは学校メールなどで連絡してもらえると助かる。

27 学園祭も合唱コンクールも先生方の努力と工夫がありとても楽しく、学校が一体となって団結しているように感じる。

28 雰囲気もよく生徒は素直で、保護者も生徒も誇りが持てると思う。

29 学校が楽しくない行きたくないと言っている。学校の良さがわからず評価もできない。

30 子どもの話から学校生活が楽しい様子。

31 学校での取組が実際わからないところがある。気になることや困っていることを見えるように提示してくれたり様々な方から意見をもらう目安箱のようなものがあると学校に関わっている感がありより良くしていこうと思うので、よりアグレッシブな八田中になると思う。期待している。

Ⅱまとめ(成果と課題)

これからも開かれた学校、信頼される学校づくりのためにも地域との連携は必要不可欠である。そのためには教職員、生徒、保護者からのアンケートを分析し、計画・実行・評価・改善の PDCA サイクルで学校運営を行っていかなくてはならない。

学校づくりの PDCA サイクルを適切に運用するためには、保護者からの多くの意見が必要となる。今年度も上記のように、保護者より様々な意見をいただいている。そのいくつかに考察を記したい。

学校での生徒と先生との関係が良いという見方が多い。一方で、一人ひとりの生徒の声にならない声に耳を傾けてほしいという意見があった。また、先生の生徒への対応で違和感を覚えたことも挙げられていた。教師が発するすべての言葉、そして行動には、重い責任をもたなければならない。その上に立ち、自信と誇りをもって教育活動を推し進めていく必要性を、改めて感じる。

あいさつについては、毎年生徒会活動の中心として取り上げられているが、当たり前なこととしてできるまでには至っていない現状がある。これから、どう意識させていくかが課題である。

行事については、部活ごとの大会予定がそれぞれであり、一長一短ある。ただ、保護者が来校する機会が一時期に集中しないよう、分散させることを考えていきたい。

八田地区は、保育所から中学校までほぼ同じメンバーであることから、他地区に比べ少々閉鎖的な傾向があるのでは、という指摘があり、他地区と交流する機会を設けてほしい、という意見をいただいた。それを解消するための一つの方法として、様々な講師を招聘し、講演会を開催してきている。これからも様々な方からのお話を聞く機会を設けていきたい。

小中一貫教育が徐々に形作られてきてはいるものの、実際にはどのようになっていくのかまだまだ見えてこない、との意見があった。学校側としても初めてのことであり、具体的に見えているわけではない。動き出した段階から、様々なご意見をいただき、地域でつくる学校として、保護者や地域とともに歩みを進めていきたいと考える。

以上、いくつかの考察を記したが、一人ひとりの方がそれぞれの考えをもっていると思う。その意見が、より学校を向上させていくチャンスと捉えていきたい。

今回も、「学校生活に関する生徒アンケート」において、学年ごとの総括を述べた。それぞれの学年にはそれぞれの特徴があり、一緒くたにはできない。さらには、生徒一人ひとり成育歴も生活環境も違うのだから、同じ対応をしていいわけではない。マニュアルはもちろん必要ではあるが、それぞれの学年、それぞれのクラス、そして一人ひとりの生徒、そうした視点を常に持ちつつ様々な課題に対応し、最善の方策を考えていきたい。

教職員の記述にもあるが、来年度へ向けて、それぞれの成果と課題を十分に理解し、全教職員が共通認識を持ちながら、家庭・地域・学校が連携を図り、信頼される学校づくりに努めることが大切である。一人ひとりの教職員の持てる力を集め、組織として様々なことに対応し、組織として学校運営に努めていきたい。